

令和3年度 社会福祉充実残額の算定

【結論】

当年度の社会福祉充実残額はマイナス→社会福祉充実計画の作成は不要

【簡便計算式】

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
資産	現金預金(全事業)	131,029,492	163,082,489	121,169,557
	事業未収金(全事業)	121,159,810	127,486,665	129,046,755
	未収金(全事業)	568,114	185,625	87,765
	立替金(全事業)	4,576,833	3,115,829	3,313,139
	前払費用(全事業)		54,663	0
	仮払金(公益収益)	0	0	0
	土地(公益収益)		39,234,368	0
	建物(公益収益)		2,400,057	0
	器具備品(公益収益)		133,369	56,251
	長期前払費用(公益収益)		204,987	0
その他の固定資産	13,399,834	18,463,432	23,930,545	
債務	流動負債(設備借入、リース債務除く)(全事業)	▲ 85,605,748	▲ 94,419,976	▲ 100,067,169
	その他の固定負債(公益収益)		▲ 1,200,000	0
	法人内退職金等(全事業)	0	▲ 49,009,264	▲ 58,087,942
	1年内返済設備借入金(公益収益)		▲ 2,039,232	0
	長期未払金(全事業)			▲ 965,217
設備借入金(公益収益)		▲ 38,427,193	0	
3号基本金		0	0	0
小計		185,128,335	169,265,819	118,483,684
控除	②再取得に必要な財産			
	③必要な運転資金			
	特例計算	▲ 690,454,872	▲ 757,398,242	▲ 785,546,342
	小計	▲ 690,454,872	▲ 757,398,242	▲ 785,546,342
差引計	社会福祉充実残額	▲ 505,326,537	▲ 588,132,423	▲ 667,062,658
		▲ 505,320,000	▲ 588,130,000	▲ 667,060,000

0

【法令による計算式】

特例計算	社会福祉充実残高	=	A活用可能な財産	-	B控除対象財産①	-	特例計算		
	▲ 667,062,658		631,296,460		512,812,776		785,546,342		
A	【活用可能な財産】	=	資産	-	負債	-	基本金	-	国庫補助等特別積立金
	631,296,460		1,198,132,546		488,303,205		31,898,044		46,634,837

※負債、基本金及び国庫補助等特別積立金との重複部分は調整

B 【控除対象財産①(社会福祉法に基づく事業に活用している不動産等) = 財産目録により特定した事業対象不動産等に係る貸借対照表価額の合計額

内訳		
未収補助金(社福事業)		10,792,000
貯蔵品(社福)		1,808,287
商品製品		2,584,753
原材料		1,193,060
前払金(社福)		1,813,905
仮払金(社福)		0
基本財産土地		1,204,745
基本財産建物		181,102,078
土地(社福)		243,675,745
建物(社福)		417,279,704
構築物(社福)		33,394,884
車両運搬具(社福)		4
器具及び備品(社福)		16,009,732
建設仮勘定(社福)		0
有形リース資産(社福)		404,352
差入保証金(社福)		20,760
基本金(1号2号)	重複の調整	▲ 31,898,044
国庫金補助等特別積立金	"	▲ 46,634,837
1年内返済設備借入金(社福)	"	▲ 18,888,000
設備借入金(社福)	"	▲ 300,646,000
1年内返済リース債務(社福)	"	▲ 404,352
リース債務(社福)	"	0

【特例計算】

年間事業活動支出(資金収支計算書)	785,546,342
-------------------	-------------